Gembox Synth (プロトタイプ)

プログラムの書き込みについて 補足説明

g200kg

Hex ファイルの生成

チップへの書き込みで一般的に使用されるHEXフォーマットのファイルはLPCXPressoの補助ツール arm-none-eabi-objcopy を使用して生成できます。

- 1. LPCXPresso IDE でプロジェクトを右クリック
- 2. Properties を選択
- 3. C/C++ Build の Settings を選択
- 4. Build Steps の Post-build steps の Command に次のコマンドを設定します。

....

 $arm\text{-}none\text{-}eabi\text{-}objcopy\text{-}O\text{ }ihex\text{ }\$\{BuildArtifactFileName\}\text{ }\$\{BuildArtifactFileBaseName\}.hex$

これでビルドを行うと同時に.hex ファイルが生成されるようになります。

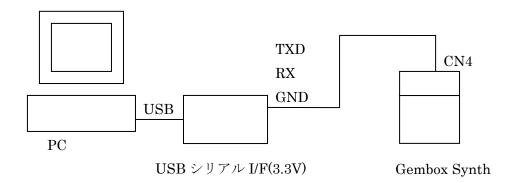
Gembox Synth への書き込み方法

1.準備

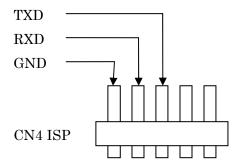
実際に Gembox Synth にプログラムの書き込みを行うには ISP(In-System Programming) モードが使用できますが、PC とのシリアル接続環境が必要になります。

例えばマルツで販売されている USB シリアルモジュール MPL2303SA が使用できます。

MPL2303SA: http://www.marutsu.co.jp/shohin 137791/



シリアルポートと Gembox Synth の接続は次のようにします。



2.ISPモード

LPC チップを ISP モードに入れます。Gembox Synth では RANDOM ボタン(右)を押したまま RESET ボタン(左)を押す事で ISP モードに入れる事ができます。なお、書き込み時にも電源は MIDI からの給電になりますので、MIDI ケーブルは接続しておいてください。

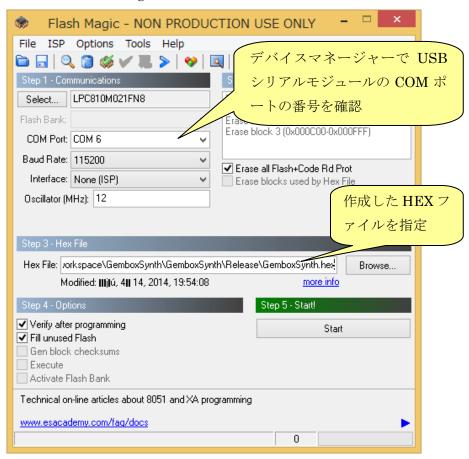
3. 書き込みツール

FlashMagic(http://www.flashmagictool.com/),

lpc2isp(http://sourceforge.net/projects/lpc21isp/)

等のツールを使って HEX ファイルを送り込み、書き込みます。

お手軽なのは FlashMagic で、製品の生産用途でなければフリーで使用可能です。



(

参考資料

書き込みに関して参考になる情報を以下に示します。

トラ技 2014 年 2 月号(8 ピン DIP ARM の特集)

(http://toragi.cqpub.co.jp/%E8%A8%98%E4%BA%8B%E3%82%B5%E3%83%99
D%E3%83%BC%E3%83%88/2014%E5%B9%B42%E6%9C%88%E5%8F%B73%E6%9C
%88%E5%8F%B7%E9%80%A3%E7%B6%9A%E4%BC%81%E7%94%BB/tabid/707/Default.aspx)

mbed.org フラッシュ書き込み

(http://mbed.org/users/okini3939/notebook/flash-program/)

Nxpfan: LPC810(= DIP8_ARM マイコン)のフラッシュへの書き込みをシリアルインターフェースで行なう

(https://www.facebook.com/notes/nxpfan/lpc810-dip8_arm%E3%83%9E%E3%82 2%A4%E3%82%B3%E3%83%B3-%E3%81%AE%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%83 %E3%82%B7%E3%83%A5%E3%81%B8%E3%81%AE%E6%9B%B8%E3%81%8D%E8%BE%BC%E3%81%BF%E3%82%92%E3%82%B7%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%AABE3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%BC%E3%83%95%E3%82%A7%E3 %83%BC%E3%82%B9%E3%81%A7%E8%A1%8C%E3%81%AA%E3%81%86/30243867 3217226)